

令和5年度 地域包括ケアとコミュニティソーシャルワーク研修 実施要項

－ 地域共生社会の実現を目指す職種横断的研修 －

1. 目的（趣旨）

昨今の少子高齢化や人口減少、核家族・単身世帯の増加等の社会構造の変化に伴い、地域においては社会的孤立や生活困窮、虐待など深刻で多様な問題が顕在化しています。

このような中、国においては、これらの複雑化・複合化したニーズに対応する包括的支援体制の構築に向け、「重層的支援体制整備事業」が法定化されるなど、地域共生社会政策が進められています。

これらに共通する視点は、個人の生活を、地域を基盤として支え、ネットワーク形成や社会資源開発を含めた地域づくりそのものを目指していくことであり、それらを実現していくために、コミュニティソーシャルワークの展開が求められています。

また、誰もが安心してその人らしく暮らすことができる地域づくりのためには、既存の制度・サービスだけでは対応が困難な課題を抱える人々に対して、身近な場で生活者と同じ視点を持って、地域住民や関係機関・団体と協働して支援を行うことが求められます。

本研修は、これらの役割を担う支援者や地域の実践者が、様々な地域社会生活課題への対応力を養い、解決につなげることができるよう、コミュニティソーシャルワークの視点や考え方を理解し、その展開プロセスや手法を学ぶための機会として開催します。

2. 主催 社会福祉法人富山県社会福祉協議会、富山県福祉カレッジ

3. 協力 特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所

4. 後援

富山県地域包括・在宅介護支援センター協議会、富山県老人福祉施設協議会、富山県知的障害者福祉協会、(公社)富山県精神保健福祉協会、(一社)富山県社会福祉士会、富山県精神保健福祉士協会、(一社)富山県介護支援専門員協会、富山県相談支援専門員協会、富山県民生委員児童委員協議会、富山県

5. 期 日

(1)前期課程 令和5年 10月 19日(木)・20日(金)

(2)後期課程 令和5年 12月 7日(木)・8日(金)

6. 定 員（予定） 40名

7. 会 場

富山県民会館 6 1 1 号室 富山市新総曲輪 4 - 1 8 TEL : 076-432-3111

8. 参加対象者

- (1) 市町村社会福祉協議会職員
- (2) 相談援助業務に従事する職員（地域包括支援センター職員、障害者相談支援機関職員、介護支援専門員、スクールソーシャルワーカー、生活困窮者自立支援事業における自立相談支援機関職員、福祉サービス等と連携し地域での生活を支援する医療機関職員 等）
- (3) 市町村行政において包括的支援体制整備や地域福祉を担当する職員
- (4) 社会福祉法人の「地域における公益的な取組」の担当者
- (5) 民生委員・児童委員、ケアネット活動リーダー等

9. 日程

【前期課程】

【1日目】10月19日（木）

時間	内容	講師等
9:00	受付	
9:30	開会・オリエンテーション	
9:40 (60分)	【講義①】 「地域共生社会政策時代における地域包括ケアと コミュニティソーシャルワーク」 地域福祉関連制度・施策の歴史的展開と今日における コミュニティソーシャルワークの必要性や意義を学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
10:50 (80分)	【演習①】 事例報告 ～県内の4事例から～	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
	事例① 滑川市地域包括支援センター 保健師 久郷 綾音 氏	
	父Aさん（透析・物忘れあり）、母Bさん（認知症）、長女Cさん（精神障害者手帳2級）の3人暮らし。市内で別居する次女Dさんは支援を拒否。両親のもの忘れ等の症状にCさんは対応ができず、親子喧嘩から興奮し、包丁を持ち出して自傷行為を凶った。Bさんが止めに入りケガを負い、両親は翌日から一週間入院となった。3人とも金銭管理が苦手で貯金がない。Aさんの甥が入院手続き等支援してくれていたが、これ以上の支援は難しい。Cさんはグループホーム等への入所を拒否しており、退院後は3人での生活に戻る事となった。この世帯への今後の支援について考えます。	
	事例② 黒部市社会福祉協議会 主事 幅 美都 氏	
	Aさん（78歳）。認知症。一人暮らし。兄弟は県外にいる。亡くなった夫の親族は近くにいるが認知機能の低下により、物忘れやものとり忘れなどの症状があり関わりづらくなっている。通帳などを失くし、手持ち金もなく困っていると地域包括支援センターから相談を受け、訪問している中で、怪しい人が出入りしていることがわかる。本人の財産を守るため成年後見制度の利用に向け支援を行うが突然、ものとり忘れの対象になり関われなくなった。Aさんを守りながら、本人の望むような生活ができるよう必要な支援について考えます。	

事例③	新川会グループホーム 施設長 野島 真裕美 氏	<p> 認知症の父親（当時84歳）から精神障害のAさん（58歳）への暴力があり介入したケース。父親との接触を減らすために、障害福祉サービスの利用を始め、その後父親は特別養護老人ホームに入居し、Aさんは一人暮らしとなった。自宅は駅から離れた田園地帯にあり、買い物はバスを利用し駅近くのスーパーを利用していたが、そのスーパーも閉店となった。一人暮らしを快適に楽しく過ごせるために利用できる社会資源について考えます。 </p>
事例④	富山県・富山市教育委員会 スクールソーシャルワーカー・社会福祉士 平野 由起子 氏	<p> 中学2年生のA子さんは両親と弟の4人家族。欠席が続いているが家庭との連絡がなかなか取れず集金は未納状態。SSWが家庭訪問を行い生活実態が分かった。母親には腎臓に疾患があり、弟は発達にやや遅れがあり小学校も休みがち、父親は仕事で帰りが遅い。A子さんが家事などを行っていた。父親からは最低限の生活費しか渡されておらず、病気がちで働くことが出来ない母親を蔑み、暴言もある。離婚をしたいがその後の生活が不安。母親の実家は県外であるため頼れる親族もいない。この母子が希望をもって今後生活していくための支援を考えます。 </p>
12:10	昼食・休憩	
13:10 (90分)	【演習②-1】事例検討(1) 「コミュニティソーシャルワークの視点による個別課題アセスメント」 報告のあった個別事例に基づき、必要なアセスメントの視点と枠組みについて考える	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
14:50 (130分)	【演習②-2】事例検討(2) 「コミュニティソーシャルワークの視点による問題解決方針の立案と援助システムづくり」 報告のあった個別事例に対する援助方針の立案とその具現化に必要なシステムについて考える	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
17:00	終了	

【2日目】10月20日（金）

時間	内容	講師等
9:30 (100分)	【演習②-2（続き）】事例検討(2) 「コミュニティソーシャルワークの視点による 問題解決方針の立案と援助システムづくり」	
11:20 (50分)	【演習③ ロールプレイ】 「ヴァルネラビリティのある人の相談支援」 自己覚知を通してヴァルネラビリティのある人の相談支援のあり方について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
12:10	昼食・休憩	
13:10 (80分)	【演習③ ロールプレイ（続き）】 「ヴァルネラビリティのある人の相談支援」	
14:30 (40分)	【講義②】 「ヴァルネラビリティのある人の特性とアウトリーチの必要性」 ヴァルネラビリティのある人の特性を理解し、発見の仕方や適切な相談支援へのつなぎ、信頼関係の構築について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
15:20 (100分)	【演習④-1】 「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発（1）」 コミュニティソーシャルワークを展開するための圏域の設定や機能、地域生活課題の捉え方、問題解決のためのプログラム開発について学ぶ	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
17:00	終了	

※前期課程の終わりに、後期課程に向けた課題がでます。事例が抱える問題を解決するプログラムを後期課程までに考えてもらいます。

【後期課程】

【1日目】12月7日（木）

時間	内容	講師等
9:00	受付	
9:30 (170分)	【演習④-2】 「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発（2）」 ・問題解決プログラム立案、グループ発表 ・プログラムの立て方、データ活用、実現するための手	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏

	順や方法等について学ぶ	教授 相山 馨 氏
12:20	昼食・休憩	
13:20 (60分)	【演習④-2 (続き)】 「コミュニティソーシャルワークの展開と問題解決プログラム開発 (2)」	
14:30 (150分)	【演習⑤】 「日常生活圏域における支援システムの構築とソーシャルサポートネットワークの形成」 本人が有する社会的関係や地域資源との関係性に着目したソーシャルサポートネットワークの形成支援とそれを実行するための仕組みづくりについて考える	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
17:00	終了	

【2日目】12月8日(金)

時間	内容	講師等
9:30~ (150分)	【演習⑤ (続き)】 「日常生活圏域における支援システムの構築とソーシャルサポートネットワークの形成」	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏 教授 相山 馨 氏
12:00	昼食・休憩	
13:00~ (140分)	【演習⑤ (続き)】	
15:30~ (90分)	【総括講義】 地域共生社会の実現に向けて専門職に求められる役割や必要な視点や考え方を再確認するとともに、今後のコミュニティソーシャルワーク実践のポイントを押さえる	富山県福祉カレッジ学長 大橋 謙策 氏
17:00	終了	

10. 参加申込み

- (1) 申込期限 令和5年9月29日(金)
(2) 申込方法



参加申込フォーム用 QR コード

【Google フォームからの申込み】(①又は②の方法で参加申込フォームにアクセスください)

①次の URL から参加申込フォームにアクセスし、必要事項をご入力ください。

URL : <https://forms.gle/PRYLpmNKO2TnbcZ76>

②本会(福祉カレッジ)ホームページ <https://www.toyama-shakyo.or.jp/> の令和5年度地域包括ケアとコミュニティソーシャルワーク研修の実施要項・申込書ダウンロードページに参加申込フォームへのリンクがあります。

【メールでの申込書送信】

ダウンロードした申込書にご入力の上、次のメールアドレスに送信ください。

メールアドレス oohata@wel.pref.toyama.jp

(3) 参加費 10,000円 (テキスト代込み)

6,700円 (テキスト代なし)

(テキストは、『地域福祉とは何か』(中央法規、2022年4月10日発行)を使用します。既にテキストをお持ちの場合やご自身で購入される場合は、参加費は6,700円となります。)

(4) 参加費及びテキスト代金のお支払い方法

10月13日(金)までに下記指定口座へお振込みください。

なお、振込手数料はご参加される方においてご負担願います。

北陸銀行 県庁内支店 普通預金 No.1083785

口座名義：社会福祉法人 富山県社会福祉協議会

(5) その他 申込多数の場合は、参加人数の調整やお断りをさせていただく場合があります。その際は、申込期限後、10日以内にご連絡します。

11. その他

(1) 前期課程の終わりに、後期課程に向けた課題がでます。事例が抱える問題を解決するプログラムを後期課程までに考えてもらいます。

(2) 全課程の受講を条件に修了証書を交付します。本研修課程の修了者には、別途本会が開催するコミュニティソーシャルワーク実践者フォローアップ講座の受講資格が得られます。

12. 問合せ先

富山県社会福祉協議会 地域福祉・ボランティア振興課 [担当：大畑]

〒930-0094 富山市安住町5番21号

TEL：076-432-6123 FAX：076-432-6124 E-mail：oohata@wel.pref.toyama.jp